

輸出事業計画

※申請者名：新潟県酒造組合、品目：日本酒

1. 輸出における現状と課題

<現状>

新潟県は、全国でもっとも多い日本酒の酒蔵を有しており、日本酒の生産量も兵庫県、京都府に次ぐ全国で3番目の規模を誇る日本酒の銘醸地である。県内の広範囲にわたり酒蔵が集積しており、高品質な日本酒を醸造する日本を代表する日本酒の一大生産地である。

近年、日本酒の海外輸出は好調で、コロナ禍の影響を受けた令和2年の輸出は、輸出量では大幅に減少したものの、輸出金額は微増となり、過去最高額を更新し、日本酒の海外市場の質的拡大は衰えていない。



※画像はイメージです。

<課題>

海外では日本酒は一般的に地域性があまり考慮されずにSakeとして取り扱われており、海外における新潟清酒の認知度はまだまだ高くない。海外輸出の質的拡大のなかで、新潟県が世界的な日本酒の銘醸地となるための取組が求められている。高価格帯の日本酒の普及を入口に、日本の伝統と地域文化に埋め込まれて発展して



きた日本酒の正確な知識理解に繋げ、将来的には、日本酒が海外において特別な酒類ではなく、各国の生活に寄り添い、身近な存在にもなることができるように、他国の料理や食材とのペアリングや嗜好に応じた商品展開へと繋がる取り組みを継続的におこない、世界的なSakeの銘醸地Niigataを目指す。

また同時に、高品質な新潟清酒の輸出に欠かせない、酒造好適米の安定収量・品質向上のための調査・改善などの取り組みも継続的に行い、海外が求める日本酒産地となるべく原料米の優良産地づくりを目指す。

2. 輸出事業計画の取組内容

輸出における課題解決に向けて、以下の事業を展開していき、更なる輸出促進につなげていく。

<海外輸出関係>

(1) 適切な情報伝達と、個性やストーリー性の強調

多くの日本酒が海外へ輸出されている中、広範囲では「新潟」の産地全体、更に細分化した地域ごとなどにおいて、それぞれが持つ特徴（品質を裏付けるストーリー性など）を強力に際立たせ、他を圧倒させることに注力する。

(2) 海外の酒器や食文化に合わせたペアリングの展開

海外で急成長を続けている「和食」に付随した日本酒の提供だけでなく、各国の食文化に寄り添う存在となるべく、日本酒と海外の酒器や食文化との相性を把握し、事業対象国へ提案していくペアリングツールを獲得する。

(3) 輸出事業者・輸入業者への教育

調査で得た有益な情報を輸出事業者（酒蔵）へ研修を通し習得させ輸出活動に活用頂く。また日本酒の適切な取り扱いをマスターしてもらうよう、輸入業者への教育も実施していく。

(4) 上記を踏まえた現地でのイベント実施

対象国で上記（1）～（3）を踏まえた市場開拓の海外事業を実施し、更なる輸出促進と「新潟清酒」のブランド確立を目指す。

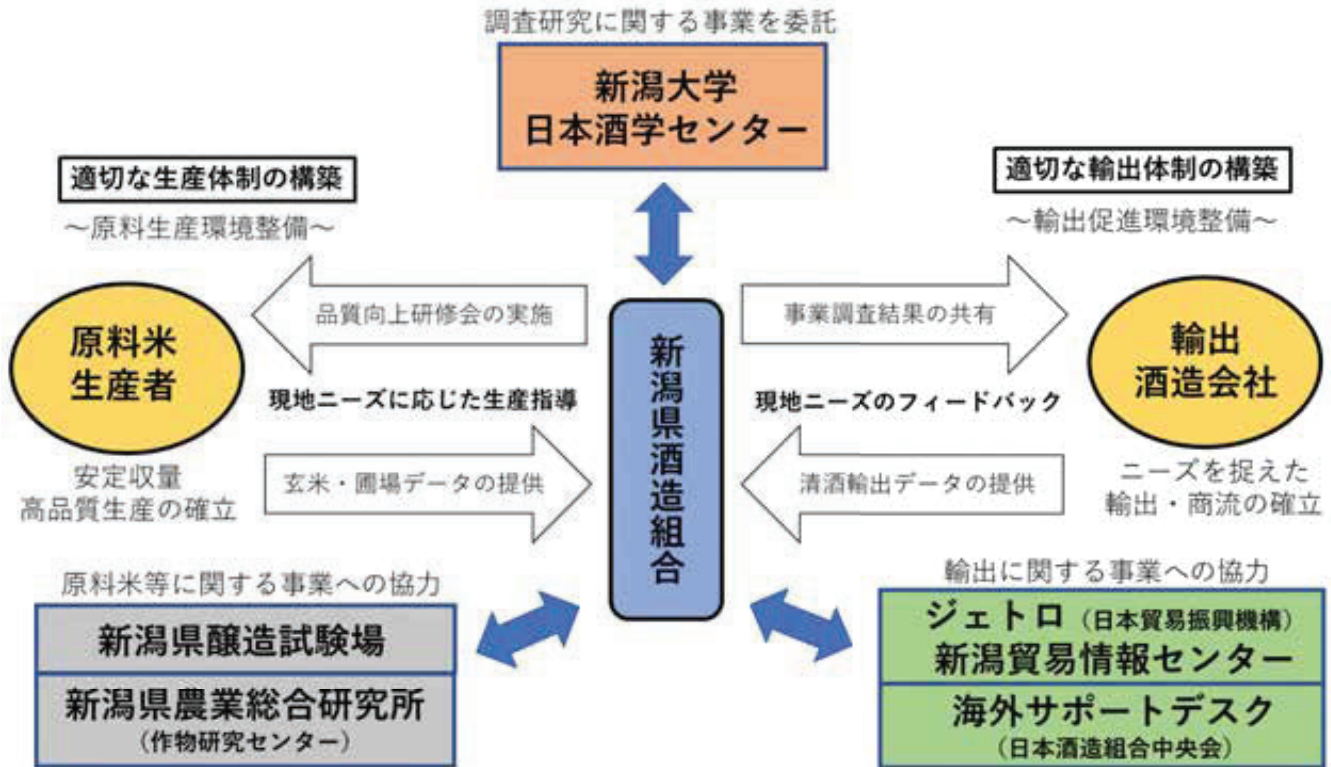
<原料米関係>

(1) 原料米の安定確保・品質向上のための調査とフィードバック

日本酒の原料となる酒造好適米の安定的な収量確保や品質向上を図り、日本酒の品質を裏付ける原料産地となるよう調査研究を行い、有効な栽培技術などは生産農家へ提供し改善を図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

下記の実施体制図に示す「協力関係機関・大学」と協力し、原料生産・日本酒生産・流通・販売の各段階における課題を協力機関の助言を得ながら解決していく。



4. 輸出目標額

		現状 (令和2年)	目標年 (令和6年)
県内全域	輸出額(円)	1,859,000,000	2,962,000,000
	輸出量 (kl)	1,676	2,671
	輸出先国・地域	アメリカ、フランス、台湾等	

※輸出量：傘下組合員の総輸出量（記載輸出先国・地域以外の国・地域、免税店等を含む）